



水質改善を願い、新開発の浄化液をボートからまく参加者(京都市左京区・宝ヶ池)

宝ヶ池 透き通れ

左京の住民ら

京大名誉教授ら開発 浄化液散布

京都市左京区の松ヶ崎学区の住民たちが25日、同区の宝ヶ池の水をきれいにする「水すまし大作戦」に取り組んだ。参加者がボート28隻で繰り出し、池本来の浄化作用を促す栄養剤入りの水溶液をひしゃくでまいた。

昨年7月に市の「エコ学区」に認定され、市民の憩いの場を美しく保とうと、松ヶ崎自

治連合会が主催。京都大の谷坂隆俊名誉教授が企業と開発し、秋田県の稲作地帯や長野県の松本城の堀で効果を確かめた浄化液を、京都府内で初めて活用した。

アミノ酸やビタミンを含む栄養剤で池の中の微生物を活性化し、水を濁らせる有機物や汚泥を分解する仕組みを、谷坂名誉教授が解説。その後、参加者がボートで池のあちこちに散り、水で薄めた浄化液をひしゃくでまく作業を繰り返した。

合計で浄化液千リットルをまいた。自然に害がなく、約1年半で水質改善が望めるといふ。

参加した松ヶ崎小4年荻野真那さん(10)は「透明な水になったらうれしい。今後の観察も楽しみ」と話した。

(高元昭典)